

測定データ解説

測定データから、客観的なケーブル品質の判断とデータ損失有無の伝送確認が可能です。

▼エラーゼロ（当社 HDMI ケーブル）



▼エラーあり（某社 HDMI ケーブル）



■データの見方

例えば、上図の 2160p30 (8 bits) は、解像度 3840×2160、リフレッシュレート 30Hz、

色深度 8bit を表しています。

■測定エラー数値について

エラー数値は、ケーブル単体による伝送前後のデータ差分です。「解像度（リフレッシュレート・色深度含む）、ケーブル長、ケーブル品質」の複合要因でエラー数値が発生します。

1.解像度

高解像度ほど伝送帯域が高くなりエラー数値が発生しやすくなります。

2160p30(8bit) = 297MHz

1080p60(12bit) = 222.75MHz

1080p60(8bit) = 148.5MHz

1080i60(8bit) = 74.25MHz

720p60(8bit) = 74.25MHz

2.ケーブル長

長いほど「赤、緑、青、クロック」の伝送タイミングにずれが生じやすく、エラー数値が発生しやすくなります。

4K 表示なら 5m 以上、フル HD 表示 (1080p) なら 10m 以上はエラー数値が発生しやすい傾向にあります。

3.ケーブル品質

悪いほど「赤、緑、青、クロック」の伝送タイミングにずれが生じやすく、エラー数値が発生しやすくなります。

■測定エラー数値と伝送エラーとの関係

測定エラー数値が高いほど伝送エラー（表示しない、ノイズが入る、など）になる確率は高くなります、比例はしません。

仮に測定エラー数値が高い場合でも、接続する表示機器側で多少は信号補償されたり、カラーが間引きされたまま結果的に伝送エラーにならず表示されることも往々あります。